

EdTech導入補助金2021

令和2年度3次補正 学びと社会の連携促進事業
(先端的教育用ソフトウェア導入実証事業) 費補助金

効果報告レポート

【事業者名】

グローバルスカイ株式会社

【ツール名】

EtonX

【ツールの機能分類】

発展的な学び



2022年2月

目次

EdTechツールの概要	…2-4p
学校等教育機関の抱える課題	…5p
EdTech導入補助金2021における活用事例	…6-9p
補助事業において実施したサポート内容	…10p
EdTech導入補助金2021における導入実績	…11p
EdTechツールの活用効果にかかる分析と考察	…12-15p
EdTechツールを活用した児童生徒・教員のコメント感想等	…16-19p
EdTechツールの導入・運用における課題とその改善策	…20p
会社概要	…21p

■ EdTech ツールの概要



EtonX(英国イートン・カレッジオンラインプログラム)はグローバルに活躍する若者に求められる対人スキルやプレゼンなどのスキルを始め「Future Skills」と名付けられた様々なソフトスキルを、英語で学びながら養成するオンライン学習プログラムです。動画やインタラクティブ・スライドを使ったEラーニングでの自学習と、バーチャルクラスルームで世界中の若者と一緒に受講するディスカッション形式のワークショップで構成されています。

About EtonX

受講対象者

- グローバルスキルを要請したい学校/生徒
- 留学代替プログラムを探している学校/生徒
- グローバルリーダーシッププログラムを実施したい学校/生徒
- グローバルスキル研修(課題解決、コミュニケーション、交渉 etc.)を実施したい学校/生徒

ツールの特徴

- イートンカレッジ教員がコースをデザイン
- イートンカレッジのリーダーシップ教育(帝王学)を提供
- イートンカレッジが提唱する未来人材に必須の

11スキル(Future Skills)を養成

- 最上級のグローバルスタンダードを学ぶ
- 世界70か国以上で学ばれている
- グローバルスカイが日本に最適化

11のFuture Skillsコース

EtonXでは、以下11コースの中から身に付けたい力や語学力に合わせ、各校の生徒に最適なコースを選定することが可能。

<コアスキル>

- Verbal Communication(コミュニケーション)
- Critical Thinking(多面的探求)
- Resilience(立ち直る力)

<アカデミックスキル>

- Writing Skills(アカデミック/ビジネスライティング)
- Research Skills(リサーチの技法)

<発展スキル>

- Public Speaking(公の場でのスピーチ)
- Making an Impact(人の心を動かす)
- Creative Problem Solving(創造的課題解決)

<キャリア準備>

- Interview Skills(面接でのコミュニケーション)
- CV Writing(レジュメでの自己表現)
- Entrepreneurship(新規ビジネスを考える)

■ EdTech ツールの概要

コースパターン

参加生徒は、学年や英語力に応じて以下2つのコースパターンを選ぶことが可能。

A オリジナルパターン

特徴：グループは日本人生徒のみ

受講条件：英検2級程度またはそれ以上の生徒

オンライン講座（90分×3回 or 50分×6回）

週数 内容	1	2	3	4	5	6	7	8	最終 課題
自習									
EtonX WS	●		●		●				

B チューターパターン

特徴：世界70か国から生徒が参加

受講条件：英検準1級程度またはそれ以上の生徒

オンライン講座（50分×7回）

週数 内容	1	2	3	4	5	6	7	8	最終 課題
自習									
EtonX WS	●	●	●	●	●	●	●		

ツール利用による効果

- 主体的な学習法により**自分事として物事を捉え解決していく力を養う**
- コースウェアに沿った予習に基づく反転学習で、
スキルと英語力の定着率が上がる
- 探究や内省、共有を繰り返す**主体的探究的な学びを通じて自己を変化させる**
- 国際環境での学びにより、世界で活躍するリーダーに必須とされる
自己理解、他者理解、環境理解を身につける

活用場面

EtonX導入活用例：

- グローバルリーダーシップ教育プログラム
- 海外研修補完・海外協働プログラム
- 高大接続プログラム



■ 学校等教育機関の抱える課題

コロナ禍の教育現場の課題

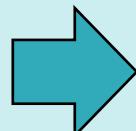
① グローバルな学びの機会が減少

- ・国際間往来の制限に出口が見えない現状で、グローバルな学びの機会が奪われている。
- ・生徒が楽しみにしている海外研修、短期留学、姉妹校交流などに実施の見通しがつかないことが学校の悩みになっている。

② アクティブラーニングの再考

- ・オンライン授業やICT端末を活用した自宅学習が広がるなか、オンラインでのグループ学習や生徒1人1人の評価手法の再考が求められている。

本事業においてグローバルスカイは、学校現場の課題感と希望の形態にEtonXを効果的に組み合わせ、
コミュニケーション力や国際発信力をつける完全オンライン対応学習プログラムとして提供した。



◆EtonXオリジナルプログラム

- ・リーダーシップ教育で名高い英国イートン校が展開する完全オンライン学習プログラムEtonX
対話力やプレゼンテーション力など次世代のリーダーに求められる「Future Skills」を養成

課題解決のねらい

- バーチャルクラスルームで世界の若者と一緒に学ぶEtonXの学習環境は、上記課題に挙げた活動を代替するものとなり得る。
- EtonXは、独自のEラーニングシステムを通して時間場所を問わずに学習に取り組めるため、生徒たちの学習計画性、自己管理能力を高めることが可能となる。

■ EdTech導入補助金2021における活用事例

遺愛女子中学高等学校

期間: 2021年9月9日～11月19日

対象: 中学2年～高校2年生の希望者による
課外活動
中2: 2名、中3: 1名、高1: 5名、高2: 19名

学校教育機関のどのような課題を解決したか:

遺愛女子中学高等学校では、クルーズ船上で地元函館の文化を英語で発信するという独自のグローバルプログラムを行なってきた。コロナ禍による海外との交流の困難さへの解決策、また北海道にいながら質の高いグローバルな発信力を養成したいという意向のもと、当プログラムの実施を決定した。プログラムでは3つのコースを実施し、生徒各自で選んだコースを通してコミュニケーションや発信力を養った。

EtonXの 'Making an Impact' 'Verbal Communication' 'Public Speaking' コースを受講。

Eラーニングで取り組む自学習と、学んだスキルを実践するオンライン講座で構成。講座は語学力に合わせ2つの受講形態を用意。

A オリジナルパターン 24名

グループは遺愛女子校生のみ
オンライン講座 (90分×3回)

実施コースおよび受講人数：
Making an Impact 3名
Verbal Communication 13名
Public Speaking 8名



EtonXのEラーニング画面



オンラインでのワークショップのようす



B チューターパターン 3名

世界70か国から生徒が参加
オンライン講座 (50分×7回)

実施コースおよび受講人数：
Making an Impact 3名

オンライン学習達成率：

EtonXオンライン講座は、受講者が学習を全体の95%を達成すると修了証が発行されるしくみとなっている。

遺愛女子中学高等学校では、受講者の26名が期間中に100%の学習達成となり、修了証を授与した。

最終課題としたプレゼンテーション動画では、各生徒がコースで学んだスキルと英語力を駆使して、与えられたトピックに対し1人約2分のスピーチを行った。受講者の27名全員が課題を提出し、担当講師により評価を行ったのち評価シートを返却した。



EtonX修了証

■ EdTech導入補助金2021における活用事例

東明館高等学校

期間: 2021年9月15日～12月24日

対象: 高校2年生全員の参加による総合学習
高2: 72名

学校教育機関のどのような課題を解決したか:

東明館高等学校は、日本人としてのアイデンティティを持ち、世界で活躍できる人材育成をめざした独自の人間教育を行なってきた。今まで様々なグローバルプログラムを実施してきたが、海外志向の生徒だけでなくより多くの生徒に世界水準の学びに触れる機会を与えるため、オンラインでEtonリーダーシップ教育のエッセンスを学べるEtonXの導入を決めた。同校独自のプログラムと連動させ相乗効果を生み出すために、正課である総合的な学習の時間にEtonXを組み込んで実施した。

EtonXの‘Public Speaking’コースを受講し、公の場でのスピーチの方法を身に着けた。

Eラーニングで取り組む自学習と、学んだスキルを実践するオンライン講座で構成。語学力に合わせ日本語サポートを重点的に用意した。

A オリジナルパターン 72名

グループは東明館校生のみ
オンライン講座 (50分×6回)

実施コースおよび受講人数：
Public Speaking 72名



最終課題プレゼンテーション動画

Type	Informal	Instructional	Informative	Performative
Speaking with friends	Green dot			
A formal presentation		Green dot		
A speech at a funeral			Green dot	
Setting instructions or giving directions				Green dot
A university lecture				
A political speech				
A presentation about a school project				
A toast				
Entertaining an audience				



Which type of public speaking do you think would be easier or more difficult? Rank the four types below from easiest to most difficult for you.

Informal	Instructional	Informative	Performative
1	2	3	4
Most difficult			

学校の教室からオンラインワークショップに取り組むようす

オンライン学習達成率：

EtonXオンライン講座は、受講者が学習を全体の95%を達成すると修了証が発行されるしくみとなっている。

東明館高等学校では、受講者の70名が期間中に100%の学習達成となり、修了証を授与した。

最終課題としたプレゼンテーション動画では、Public Speakingコースで学んだスキルと英語力を駆使して、与えられたトピックに対し1人約2分のスピーチを行った。受講者の72名全員が課題を提出し、担当講師により評価を行ったのち評価シートを返却した。

日本語サポート資料の一部

■ EdTech導入補助金2021における活用事例

福岡大学附属若葉高等学校

期間: 2021年9月24日～12月24日

対象: 高校2年生の希望者による総合学習
高2: 32名

学校教育機関のどのような課題を解決したか:

福岡大学附属若葉高等学校は、グローバルコースの生徒に3ヶ月間の留学でホームステイをしながら英語を学ぶ機会を設けているが、コロナ禍により海外への渡航が出来なくなり、その代替として生徒たちの英語力を伸ばせるプログラムを探していたところ、EtonXの存在を知り、導入を決定した。プログラムではレベルに分けて2つのコースを実施し、英語力のみならず多くのスキルを習得した。

EtonXの'Public Speaking' 'Critical Thinking' コースを受講しスキルと英語力を身につけた。

Eラーニングで取り組む自学習と、学んだスキルを実践するオンライン講座で構成。英語力の高い生徒は Critical Thinkingコースへ誘導。

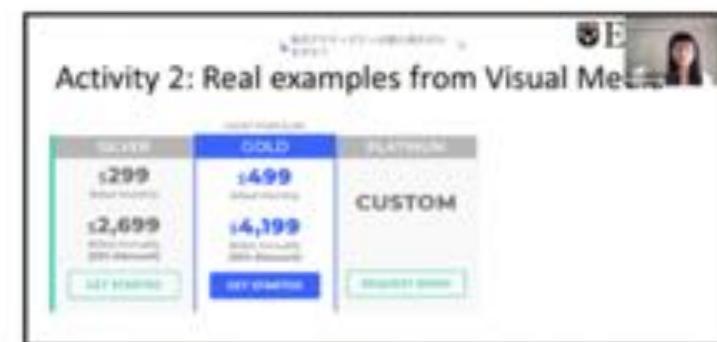
A オリジナルパターン 32名

グループは若葉校生のみ
オンライン講座（50分×7回）

実施コースおよび受講人数：
Public Speaking 24名
Critical Thinking 8名



教室で自学習に取り組むようす



オンライン講座のようす



最終課題プレゼンテーション動画



オンライン学習達成率:

EtonXオンライン講座は、受講者が学習を全体の95%を達成すると修了証が発行されるしくみとなっている。

福岡大学附属若葉高等学校では、受講者の29名が期間中に100%の学習達成となり、修了証を授与した。

最終課題としたプレゼンテーション動画では、Public Speakingコースで学んだスキルと英語力を駆使して、与えられたトピックに対し1人約2分のスピーチを行った。受講者の22名全員が課題を提出し、担当講師により評価を行ったのち評価シートを返却した。

■ EdTech導入補助金2021における活用事例

福岡中央高等学校

期間: 2021年9月28日～12月17日

対象: 高校1年生の希望者による課外活動
高1: 32名

学校教育機関のどのような課題を解決したか:

福岡中央高等学校は、コロナ禍により海外語学研修が中止となり代替できるプログラムを探していた。国内かつ個人の自宅から受講できるEtonXに魅力を感じ導入を決めた。今回採用したPublic Spaekingコースでのスキル習得を、生徒による学校の広報やリーダー育成にも活用していきたいという目的が実施を後押しした。コースでは意欲的に発言をする生徒が多く、自信を持って自分の意見を伝えられる生徒を多く育成した。

EtonXのPublic Speakingコースを受講し、公の場でのスピーチの方法を身に着けた。

Eラーニングで取り組む自学習と、学んだスキルを実践するオンライン講座で構成。英語での発信力養成を目標に学習に取り組んだ。

A オリジナルパターン 32名

グループは福岡中央校生のみ
オンライン講座 (50分×6回)

実施コースおよび受講人数：
Public Speaking 32名



生徒によるEtonX紹介動画

Activity 2: Body language

Let's practice!

Your teacher will show you different ways to use body language while presenting this:

Good morning everyone, thank you for coming. I'm [your name] and today I want to talk to you about plastic. Did you know that 1 million plastic bottles are used every minute around the world? Less than half of those are recycled. This is causing huge problems for the environment.

Activity 2: Group discussion

Let's look again at this opening to a talk

Good morning everyone, thank you for coming. I'm [your name] and today I want to talk to you about plastic. Did you know that 1 million plastic bottles are used every minute around the world? Less than half of those are recycled. This is causing huge problems for the environment.

1. Which technique is used to engage the audience?
2. Which other techniques for starting a talk could you use for presentation?
Take 2 minutes to think of your answers.



オンライン講座のようす

最終課題プレゼンテーション動画

オンライン学習達成率:

EtonXオンライン講座は、受講者が学習を全体の95%を達成すると修了証が発行されるしくみとなっている。

福岡中央高等学校では、受講者の31名が期間中に100%の学習達成となり、修了証を授与した。

最終課題としたプレゼンテーション動画では、Public Speakingコースで学んだスキルと英語力を駆使して、与えられたトピックに対し1人約2分のスピーチを行った。受講者の32名全員が課題を提出し、担当講師により評価を行ったのち評価シートを返却した。

■ 補助事業において実施したサポート内容

EtonX導入に際し、プログラム受講期間中は各学校等教育機関へ、下記をはじめとしたサポートを行いました。

ツール導入前

◆テストアカウントの発行

導入校の教員に対して、EtonXのテストアカウントを発行。マニュアルとともに提供し、校内で先生が生徒のツール利用のサポートをできるようにした。

◆コース設定にあたっての相談、デモレッスンの実施

EtonXでは身に着けたい力に合わせた5コース※の中からの選択式としたため、導入校の英語科教員等と綿密に連携したり、生徒向けにデモレッスンを実施したりしながら、教科学習との連動や補完を鑑み各校の生徒に最適なコースを決めていった。

また、EtonXのオンライン授業は、難易度別にクラスを分けていくため、各校の参加生徒の語学力や意欲度に合わせたクラス分けになるよう、導入先教員と相談し決めた。

※コミュニケーション、多面的思考、公の場でのスピーチ、人の心を動かす、創造的課題解決

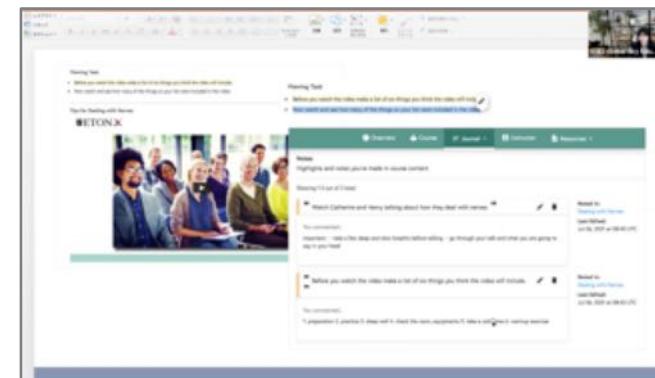
ツール導入中

◆システム操作のサポート

ツールの操作マニュアルを教員・生徒向けに提供するほか、各校教員向けと生徒向けの操作研修を行った。EtonXでは通常サポートの一環として実施している生徒対応を、本補助事業でも実施。期間中は、ヘルプデスクを開設し、常時2名のサポート人員を設置、不明点が出た場合は生徒や先生がメールや電話で直接問い合わせができる体制を整えた。また、EtonXは全て英語で行われるため、グローバルスカイが日本の教育機関向けに書きおろした全WEBサイトの日本語訳と解説資料を提供した。

◆学習進捗のフォロー

期間中のEラーニングは生徒各自で計画を立てて進めていくため、システム上で進捗を確認し、遅れている生徒にはグローバルスカイの講師より個別メールで適宜フォローを行うことで、プログラムをやりとげられるようサポートした。



EtonX 生徒向け操作研修のようす



オリエン内、日本語ワークブック紹介のようす

日本語ワークブック：

- Eton X のコース内を日本語訳
- コース内の課題を解説
- 学習のコツやヒントを紹介

■ EdTech導入補助金2021における導入実績

本事業におけるEdTechツール「EtonX」 導入実績

全国4校の中学校2年生から高校2年生まで163名の生徒が利用

ツール利用者総数：163名

学校等設置者数：4設置者

学校法人遺愛学院、学校法人東明館学園

学校法人福岡大学、福岡県教育委員会

学校等教育機関数：4校

▼遺愛女子高等学校

北海道函館市杉並町23-11

福島 基輝 校長

▼東明館高等学校

佐賀県基山町大字宮浦683

黒木 忠好 校長

▼福岡大学附属若葉高等学校

福岡県福岡市中央区荒戸3-4-62

宮原 歩 校長

▼福岡中央高等学校

福岡県中央区平尾3-20-57

佐伯 裕子 校長

遺愛女子高等学校

利用対象：中学2年～高校2年 利用人数：27名

利用期間：3ヶ月間

利用場面：

課外活動や自主活動の一環として希望者を募り実施

学習プログラム概要：

EtonX ‘Making an Impact’ ‘Verbal Communication’ ‘Public Speaking’ コースでスキルを学ぶ。最終課題として、習得したスキルを駆使し英語で1人約2分間のプレゼンテーション動画を作成して提出。

東明館高等学校

利用対象：高校2年 利用人数：72名

利用期間：3ヶ月間

利用場面：

総合の教科学習として高校2年生全員に向け実施

学習プログラム概要：

EtonX ‘Public Speaking’ コースで公の場でのスピーチについてのスキルを学ぶ。最終課題として、習得したスキルを駆使し英語で1人約2分間のプレゼンテーション動画を作成して提出。

福岡大学附属若葉高等学校

利用対象：高校2年 利用人数：32名

利用期間：3ヶ月間

利用場面：

総合の教科学習として高校2年生の1クラスを対象に実施

学習プログラム概要：

EtonX ‘Public Speaking’ ‘Critical Thinking’ コースでスキルを学ぶ。最終課題として、習得したスキルを駆使し英語で1人約2分間のプレゼンテーション動画を作成して提出。

福岡中央高等学校

利用対象：高校1年 利用人数：32名

利用期間：3ヶ月間

利用場面：

課外活動として希望者を募り実施

学習プログラム概要：

EtonX ‘Public Speaking’ コースで公の場でのスピーチについてのスキルを学ぶ。最終課題として、習得したスキルを駆使し英語で1人約2分間のプレゼンテーション動画を作成して提出。

■ EdTechツールの活用効果にかかる分析と考察

分析項目 EdTechツール/EtonXを使ったことによる期間中の生徒の変容は下記の方法で把握・評価しました。

1. コミュニケーションスキルを取得できたか

EtonXの利用によって、専門性のあるコミュニケーションスキルの取得ができたかを測定。コースごとに定められた10の力について自信をもっているかを、EtonX独自の5段階評価アセスメントにより学習の事前と事後に生徒が自己評価した。自己評価後は、導入校ごとに平均値を出し、学習前後の変化を調べた。

2. 英語での発信に自信がついたか

EtonXの利用によって国際的な場で発信することに対し自信がついたかを分析。聴衆や所要時間等を決めた仮のシチュエーションについて、自分が英語で発表することになったらどう感じるか、自信の度合いや不安なことを生徒に答えてもらうアンケートを、学習の事前と事後に実施し、学習前後の回答の変化を調べた。

3. 自己表現力を評価

最終課題として、自分でプレゼン等の発表を動画に撮り提出してもらう。動画はグローバルスカイの講師によりスキルごとに5段階で評価され、各人の強みと課題を把握できるようにした。これにより、生徒たちは今後の学習の目標設定ができる。

分析結果

1. EtonX：コミュニケーションスキルを取得できたか

EtonXは専門的なコミュニケーションスキルを身に着ける複数のコースがあり、コースごとに定められた10の力について自信をもっているかを、EtonX独自の5段階評価アセスメントにより学習の事前と事後に生徒が自己評価しました。例えば「Public Speaking」コースでは、公の場で自信を持って自分の意見を伝えられるかを、様々なテクニックをもとに学んでいきます。アセスメントでは「聞き手の興味をひく話し方ができる」「緊張をコントロールすることができる」など5段階評価で聞きました。

導入校4校の
アセスメント平均値の推移

2.49 → 3.78

学習前

学習後

5段階評価で1.3上昇

各校ごとのアセスメント平均値の推移

遺愛女子高等学校

2.37 → 4.32

学習前

東明館高等学校

2.72 → 3.75

学習前

学習後

福岡大学附属若葉高等学校

2.30 → 3.32

学習前

福岡中央高等学校

2.60 → 3.73

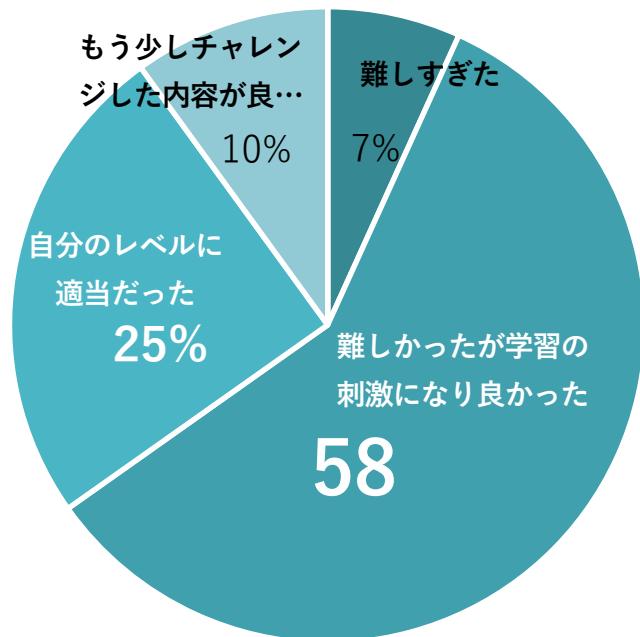
学習前

学習後

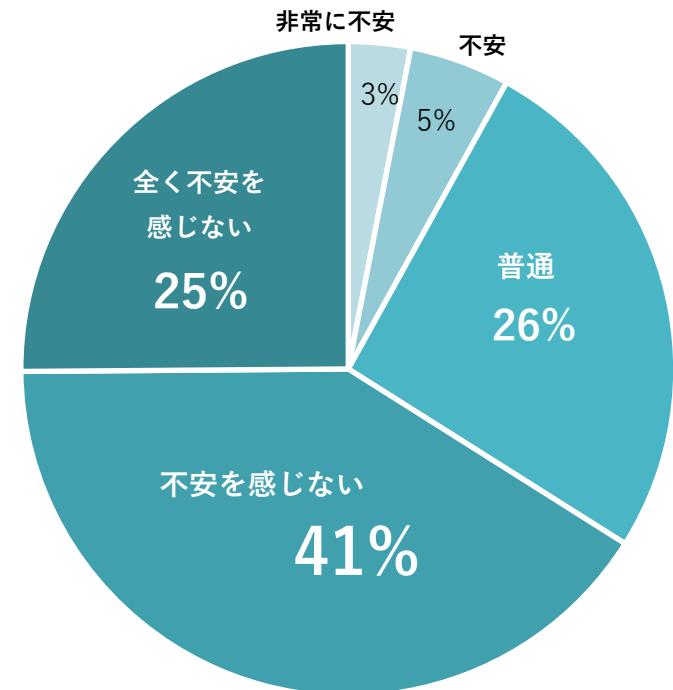
分析結果

2. EtonX: 英語での発信に自信がついたか

Q: EtonX講座の難易度は自分にとっていかがでしたか？



Q: 英語を話し他人とコミュニケーションを取ることに不安を感じますか？



英語で話すことに
「不安を感じない」「全く不安を感じない」が増加

受講後 **66%**

分析結果

3. EtonX：自己表現力を評価

最終課題として、各自約2分のプレゼンテーション動画に撮り提出してもらう。動画はグローバルスカイの講師によりスキルごとに5段階で評価され、各人の強みと課題を把握できるようにした。生徒は今後の学習の目標設定をしスキルのさらなる向上を目指す。



EtonX 最終プレゼンテーションのようす

Knowledge and skills				
How well does the student demonstrate a clear understanding of the course material, and an ability to apply this knowledge?				
Poor	Fair	Good	Very good	Excellent
1	2	3	4	5
Comments				
Ayami chose to give a persuasive speech, the excellent structure, language and pacing show she has understood the course and the material. In the same way, her body language and simple, clear visuals aided understanding without distracting from the message.				
Presentation				
How clearly does the student present the information?				
Poor	Fair	Good	Very good	Excellent
1	2	3	4	5
Comments				
The information was presented with a very clear structure and there was some very good language. The ending and call to action were also very well delivered. She could work a little on phonetic pronunciation, especially the "w".				
Total score (/10)	9			

評価シート

←

評価項目

■ 知識とスキル

コースで学んだ内容をどのくらい理解できているか。
習得した知識やスキルを活かしているか。

■ プrezentation

どのくらい正確かつ簡潔に情報を伝えられているか。

導入校 4 校の平均スコア

7.5 / 10点中

分析結果の考察 アセスメントにおいて、英語コミュニケーション力と自信が向上した要因

1. グローバル環境での学びを体験

コロナ禍により各学校が海外研修などのグローバルプログラムの実施が困難ななか、生徒たちがグローバル環境での学びを渴望しており、Eton Xによって実現したグローバルな学びを体験することで、海外環境と同様に英語でのコミュニケーションやディスカッションスキルを習得できた。生徒のコメントからも、「実際の海外にいるような環境に身を置けたのが自身の成長に繋がった」（福岡大附属若葉高校）や「学校の教科書では学べない本番の英語をネイティブ講師から学べたので、実際に海外でも通じる英語力がついたと実感できた。」（遺愛女子高等学校）等、海外と同じような環境に身を置けたことで自信を深めたことが伺える。また、2ヶ月という長期間グローバルな学習環境での学びを続けられたのも成果が見られた要因であり、短期の海外研修とは異なる方法でグローバルな学びを提供できた。

2. アクティブラーニングによるソフトスキル向上

EtonXは自習部分においても、受け身の知識習得とは異なり、一つ一つの課題に主体的に取り組み、内省し、探求し、試行錯誤を加え、表現する、アクティブラーニングが特徴だが、生徒はプログラムをとおして試行錯誤を繰り返し、課題解決力や発信力等のソフトスキルを習得できた。「自学習の中の動画で同年代の生徒が話している様子を見てすごく感心した。それが、次のワークショップで試してみよう話してみようという気持ちの活力になった。」（遺愛女子高校）のように、自習部分においても海外の生徒の発言から刺激を受け、それがワークショップでのより能動的な発言につながっている。また、「間違えても正解するまで何回でもやろうという気持ちになっていた」（福岡大附属若葉高校）というコメントにあるように、試行錯誤を繰り返すことで課題解決力を習得し、自信が向上したと考えられる。「講座で学んだことは、英語に限らず日本語でも使えるスキルなので、日頃の授業や生徒会、社会人になった後でも活用していきたいと思う。」（東明館高校）というコメントからは、インプット型の学習では身につかないソフトスキルを、EtonXのアクティブラーニングによって生徒が身につけたことがわかる。

■ EdTechツールを活用した児童生徒・教員のコメント感想等

生徒の感想 Q. プログラムを受けてみて、良かったこと、自己の中で向上したことなど



遺愛女子高等学校
受講生徒

- ・オンラインで一人で学習するだけでなく他の生徒や先生と一緒にディスカッションすることが、**自分の英語力を確かめる良い機会になった。**
- ・自分の話す英語が伝わる英語なのかが不安だったが、講座を通して**英語で学ぶこと/話すことの怖さや抵抗感が減った**ように感じた。
- ・普段なら全く接点のない生徒と英語で会話をしたことが新鮮で楽しい体験だった。自学習の部分で学んだことを他の人がどう使うのかを聞くことが出来たので、**自分の中の活用例が増えて学びが深まった。**
- ・**自学習の中の動画で同年代の生徒が話している様子を見てすごく感心した。**それが、次のワークショップで試してみよう話してみようという気持ちの活力になった。
- ・日本語とは違った言葉の使い分けや英語ならではの言い回しなど、**学校の教科書では学べない本番の英語をネイティブ講師から学べた**ので、実際に海外でも通じる英語力がついたと実感できた。完璧な文章でなくても伝える姿勢をもって話すことで、相手に伝わることが分かり自信がついた。

東明館高等学校
受講生徒

- ・ネイティブの先生が実際に手本を見せてくれることで、イメージが湧いて実践に取り入れやすかった。
- ・Zoomのブレイクアウトルームを使って生徒同士でディスカッションすることに関して、最初は緊張していたけど**ワークショップの回を増すごとに自分でも頑張れば英語を話せるんだという大きな自信に繋がった。**いろんなことにチャレンジしてみようという気持ちになった。
- ・今まででは英文を読むのに余裕がなく単語を正確に発音するだけでも精一杯だったが、講座を通して実践的に学んだことで、**相手にどう分かりやすく伝えるかを意識するようになった。**
- ・講座で学んだことは、**英語に限らず日本語でも使えるスキル**なので、日頃の授業や生徒会、社会人になった後でも活用していきたいと思う。
- ・EtonXで学んだことがきっかけで英語を話すことの楽しさを知った。今後さらに英語が必要になってくるので、**もっと学習してきたい**と思う。

■ EdTechツールを活用した児童生徒・教員のコメント感想等

生徒の感想 Q. プログラムを受けてみて、良かったこと、自己の中で向上したことなど



福岡大学附属若葉高等学校
受講生徒

- ・コロナ禍で海外研修に行けないなか、ネイティブの先生とオンラインで繋がって学習することが出来るのは、すごく良い機会になった。
- ・普段学ぶことのできない内容だったため、**楽しく積極的に学習を進めていくことが出来た。**
- ・オンラインワークショップの回を増すごとにネイティブの先生とも打ち解け、より会話が広がっていったことが、**コミュニケーション力と英語力の両方が向上したからなのだと、自分自身で実感できた。**
- ・PCやタブレットを使用して受講しているから、分からぬ単語が出てきてもその場で調べることが出来なかったのが良かった。自分で推測してみたりネイティブの先生に質問してみたりと、**実際の海外にいるような環境に身を置けたのが自身の成長に繋がった。**
- ・講師が毎回褒めてくれるのが自信に繋がり、最後までモチベーションを保ったまま学習をすることが出来た。モチベーションのおかげで、**間違えても正解するまで何回でもやろうという気持ちになっていたから、英語力があがったのだと思う。**

福岡中央高等学校
受講生徒

- ・間違えることは良いことでも悪いこともあるが、回答を間違えた時にネイティブの先生が優しい面持ちで接してくれたのがすごく良かった。**次は正解したいと思うとともに間違えても良いんだと思うと気楽に答えることができた。**
- ・1回目のワークショップと最後に受講したワークショップとで、**自分自身に成長を感じることができた。**
- ・まだまだ分からぬ英語が沢山あったり、英語でスムーズに対応できない場面があったりしたが、**今まで学んできた英語が良く活かせた**という実感があった。
- ・最初は自分だけ難しい単語を聞き取れなかったり、話せないのかと思っていたが、ワークショップの中での他生徒との交流を通してそれらが**自分だけではないと知って緊張がほぐれたり、自分もできるということが分かって自信につながった。**

■ EdTechツールを活用した児童生徒・教員のコメント感想等

教員のコメント



遺愛女子高等学校 福島 基輝 校長

Q. EtonXでの学びを通して、生徒の皆さんはどのように成長しましたか。

単に先生と1対1で学ぶというものではなく、仲間と一緒にディスカッションをしたり英語での発表の機会があったりすることは、他の英語プログラムにはないものだと思った。基準を満たす英語力は必要だが、力を持っている生徒には、さらなる力や可能性を開いてくれる素晴らしいプログラムだと感じた。

Q. 御校でEtonXといったICTツール導入を民間企業と協力して行った意義はどのようなものでしたか。

インターネットを使ったプログラムや演習がかなり発展していることは以前より知っていたが、実際に生徒が楽しそうに学んでいる姿を見て、やはりICTツールを使っての学習には深い意味があることを改めて発見することができた。EtonXは生徒の力を1ランク、あるいは2、3ランクもアップさせるような、本物の力を受けられる教材だと思ったので、今後も積極的に導入を検討し、生徒に勧めていきたい。

東明館高等学校 和泉 恒平 先生



Q. EtonXでの学びを通して、生徒の皆さんはどのように成長しましたか。

机上の「勉強」としてではなく、コミュニケーションツールとしての英語を通した体験学習で、自然と視野が広がり、通常の授業の中でも自ら学びへ向かうことの重要性を学べたように思います。

Q. 御校でEtonXといったICTツール導入を民間企業と協力して行った意義はどのようなものでしたか。

コロナ禍によるオンライン授業の有効活用の具体的手立てを考察することが学校全体の課題であり、同時に各種学校の諸活動・教科指導を「カリキュラムマネジメント」の側面からその教育効果を最大化するために再構築することが、新しい教育の実現として必要不可欠でありました。このEtonXを通して、世界に開かれた教育をオンラインという形で実現できたことは、学校としても大きな成果だったと感じています。

■ EdTechツールを活用した児童生徒・教員のコメント感想等

教員のコメント

福岡大学附属若葉高等学校 酒元 良子 先生

Q. EtonXでの学びを通して、生徒の皆さんはどのように成長しましたか。

プログラムの内容を多少難しく感じる生徒もいたようだが、少し負荷のかかる内容に諦めずにチャレンジする、やるとそれなりの結果が得られるということを学んでくれたように思う。受講したコースの中でそれぞれ実践的なスキルも多く学び、生徒自身が多くの場で活躍していく力を身につけられたと感じている。

Q. 御校でEtonXといったICTツール導入を民間企業と協力して行った意義はどのようなものでしたか。

かなり完成した形でのプログラム内容を提供していただけたので、校内や教員側で作成したプログラムよりも非常に内容の濃いプログラムを実施することができたと感じている。オンライン学習の進捗状況等は、グローバルスカイに綿密にサポートしてもらっていたということもあり、教員側の生徒の管理面やオリエンテーションなど生徒管理の負担軽減のもとプログラムを終えることができた。

福岡中央高等学校 佐伯 裕子 校長

Q. EtonXでの学びを通して、生徒の皆さんはどのように成長しましたか。

シャイな生徒が多いが、プログラムの最後の方になると、生徒たちの顔つきが変わってきて。開き直ったような表情をしながら堂々と自分を出しスピーチングが出来ていたことが印象的だった。英語力やプレゼンテーション力はもちろんだが、自分に自信を持って、それを堂々と表現できるようになったことに非常に大きな成長を感じた。

Q. 御校でEtonXといったICTツール導入を民間企業と協力して行った意義はどのようなものでしたか。

ICTツールやノウハウにおいて教員としての限度があるが、違う組織の方やプロの方からのアドバイスによって専門的に進めることができたし、ツールとしても充実していたと思う。新教育課程の実現に向けて言及されている「社会に開かれた教育過程」というものがあるが、

やはり学校だけでは出来ないことが沢山あるなか、地域の方やプロの方の力を借りて全面的に生徒の成長を促すことが大事だと思う。生徒が自宅からオンライン学習をするという今回のプログラムの形は、なかなか教員での発想にはなく、新しい風を吹き込んだと思っている。



■ EdTechツールの導入・運用における課題とその改善策

課題

■ICTリテラシーの向上

本事業では、オンライン学習ツールとしてEtonXを活用するとともに、学習内容のアウトプットの場としてZoomでのオンラインワークショップを行った。Eton Xプラットフォームに慣れるまでに多少時間がかかったことはもちろんだが、Zoom使用の経験と知識が生徒によりかなり個人差があったため、初回のワークショップでは開始に時間がかかるってしまうことが多かった。Zoom の機能の使用についても、初期の段階では苦労する生徒が多数いた。また、メールやサポートサイトの使用にも慣れていないため、情報共有に時間がかかってしまうこともあった。

■正課（総合学習）授業でのICT学習運用の向上：ディバイス等の設定

本事業では、Eton Xを正課授業（総合的な学習（探求）の時間）での導入をした。同時に大人数の生徒が複数の教室でオンラインレッスンを受講したため、インターネットトラブル、Zoom関連、ディバイスのセットアップ関連トラブルをはじめとして、様々な問題が発生した。また、同時に多数の生徒が同時に学習しているために、トラブルの発見と改善に時間がかかってしまった。

■正課（総合学習）授業でのICT学習運用の向上：サポート内容の共有

本事業では、担当教員を中心に学校全体で情報共有を行ってもらい、事業者側でも生徒向けオリエンテーションや説明会を実施したが、正課授業で一斉に学習を行う場合には十分ではなかった。特に、各教室に最低一人の教員が待機していたが、トラブルを解決するのに十分な情報共有までは行えていなかったため、トラブル解決に時間がかかってしまった。

改善策

■ICTツールトレーニングサポートの強化

学習開始前に、学習ツールだけでなく、Zoomの使い方講座等を事前のオリエンテーションに組み込むなど、ワークショップが始まる前にある程度操作に慣れて、使い方を理解する場の提供が必要。また、メールやサポートサイトの使い方も、生徒たちに実際に手を動かして体験しながら理解してもらう場を設けることが必要。

■事前環境確認の強化

オリエンテーション等で事前にディバイス設定、Wi-Fi容量、Zoom設定を確認しておくことに加えて、授業と同じ状況を試すためのシミュレーションテストを行う必要がある。各学校の課題を事前に洗い出し、学習開始までに課題を解決しておくことが重要。

■教員向けサポートの強化

本事業では、生徒の理解を深めるよう努めてきたが、教師を含めた学校全体の理解を深化させるために、担当教員以外の教員への説明会やトラブル解決研修等を行う必要がある。

グローバルスカイ株式会社

所在地	〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿4-20-4
創業	2012年
代表者	代表取締役社長 永田幸
連結売上高	3,000 (百万円) 2021年3月末現在
従業員数	連結300名 2021年3月末現在

グローバルスカイ株式会社は、サステナブルな社会を創るために、「未来を創り、世界とつなぐ」を理念に掲げ、人・企業・コミュニティの成長と国際化に貢献する体験型のソリューションを企画・開発・提供するクリエイティブ企業です。「創る」「つなぐ」「コミュニティを育む」ことを追求して教育・トレーニング事業を中核にグループ展開し、「グローバル市民として生き抜くため、ライフロングの学びをデザインする力」を強みに、あらゆる年齢層と産業界における人材育成につながる「ラーニング・エクスペリエンス」をリアルの場とオンラインで提供しております。日本、オーストラリア、ニュージーランドで展開する直営のラーニングセンターは、学びの体験をはじめとする様々なソリューションを知っていただく場と位置付けております。

●EtonXに関する問い合わせ先
EtonX Japan事務局
support@gskycedu.com